

第3回専門部会 議事録（地域カテゴリー）

平成27年12月21日（月）18時30分～  
登別市市民活動センター のぼりん 2階 市民活動室A

- ◆出席委員：川田 弘教 委員
- 千葉 洋子 委員
- 米田 登美子 委員
- 井上 昭人 委員
- 佐野 亮二 委員
- 岩崎 隆二 委員
- 計6名

- ◆事務局：商工労政グループ穴戸商工労政・新エネルギー主幹  
          奥田主査  
          竹中担当員

- ◆議題：（1）各専門部会における具体的事業（テーマ）の決定  
          （2）事業内容の協議

【要旨】

項目	発言者	内容
<p>(1) 各専門部会における具体的事業（テーマ）の決定</p>	事務局	<p>ご多忙のところお集まり頂き、ありがとうございます。第3回専門部会を開催いたします。</p> <p>今回は、道の駅を設置することで、雇用創出効果や観光客の誘客に繋がるなど、循環の拠点となる場に関する話が多く出ていた。</p>
	委員	<p>人が集まるのは道の駅だけではない。函館の市民活動センターでは、道南地区の移動の中心地点になっており、移住政策の窓口や住民が集まるスペースがある。人が交流するシステムとして市役所の庁舎や市民活動センターの活用も考えられる。</p> <p>目的が一つだと集まりやすい。例えば町内会やPTAなどは集まりやすいが、それが市民と観光客が集まるためには、どういう人がキーパーソンになるかが問題である。</p> <p>全てのテーマに関連することだが、誰がいつやるのか等の話になると、協議会の中で今話し合っていることを今後も継続的に考える場が必要になると思う。</p> <p>これからは民間主体で街づくりをしていこうと連携しながらやっていく、これをコーディネートし、事務機能のある団体があると具体的になっていくのではないかと。</p>
	委員	<p>九州、中国地方の道の駅では、ただ売る物があるとか、景色が良いだけではなく、運営する人たちが目的を共有しているものが流行っている理由だと思う。</p> <p>食べるものや売るものが無いと言われているが、それぞれの家庭の味を持ち寄って商品化するなど、色々なやり方があると思う。</p> <p>閻魔やきそばなど地域の代表するグルメがあるが、閻魔やきそばの会ではみんなに愛される為に作り方を教える、材料をセットで売るなどにより方法により地域に浸透させていこうと考えてい</p>

委員		<p>る。それを道の駅で販売する方法もある。</p> <p>体験できる施設があればいいと思う、例えばかまぼこ作りを体験できる施設などは、小樽までいかなければならない。体験できる施設があるのは魅力があると思う。</p>
委員		<p>廃校などをリノベーションして人が集う施設を作るといいかもしれない。</p>
委員		<p>多角面、複合的な機能を持つ場を作るのであれば、道の駅を作れば良いのではないだろうか。</p> <p>高速道路のパーキングエリアの様な機能を持つ施設を一般道にも設けることを目的に設置されるようになったが、高い自由度により地域の特色を掲げることができる道の駅の存在は、今やパーキングエリアよりも人気の施設となっている。</p> <p>道の駅で売る物がないと言われているが、地元の物でなくても売れる商品はある。地元の物を活用しなくても売る物を作ればよい。</p>
委員		<p>団体のお客さんがきても、食事するところを紹介できる場所がない。道の駅があれば買い物もできるし食事もできる。</p> <p>サンライバスキー場は、夏季に利用されていないが近くに温泉もあり、体育館などの施設と連携して、大学の合宿として利用してもらう方法もある。</p>